

**Q6：特別支援学級担任は、どのような点に留意して保護者と連携を図ったらよいか。**

A： 「特別支援学級及び通級による指導 教育課程編成の手引」（平成22年2月県教委）には、「児童生徒の望ましい人間形成を図る上で、教育方針等について家庭との共通理解を図るなど、保護者との信頼関係を築くことがとても重要である。」と示されている。

ここでは、特別支援学級担任が保護者と共に特別支援学級に入級する前やその後の学校生活等で抱く期待や疑問、不安などの思いを整理したり、特別支援学級で学ぶことのよさを保護者に伝えたりすることを通して、互いの信頼関係を築いていくための取組について紹介する。

## 1 保護者の思いを知る

子どもが学校や家庭、地域社会で様々なことを経験して学んで成長していくように、保護者もそれらとの関わりの中で成長していくことが望まれる。学校は保護者の様々な思いを受け止め、支援をしていくことが求められる。

特に、子どもが特別支援学級に入級している保護者や子どもの入級を考えている保護者の思いは、複雑なことが多い。特別支援学級に入級前と入級後の一般的な保護者の思いを整理すると、次のようなものが挙げられる。

	特別支援学級に入級前	特別支援学級に入級後
保護者の思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に合わせた学習をしてもらえるので、子どもが学校に行くのが楽しそう。</li> <li>・どんな勉強をするのか、時間割はどうなるのか教えてほしい。</li> <li>・通常の学級では勉強しないで、一日中、特別支援学級で過ごすのか。</li> <li>・特別支援学級に在籍していると、いじめられるのではないか。</li> <li>・学区外からの通学になる場合は、どうしたらいいのか。</li> <li>・小学校や中学校を卒業後の進路は、どのようになっているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から帰ってきた後の子どもの様子が、いい意味で今までと変わった。学校でどのように過ごしているか教えてほしい。</li> <li>（特別支援学級での様子 交流及び共同学習の様子 身辺自立の様子 休み時間や交友関係の様子等）</li> <li>・友達とけんかしたり先生方に迷惑をかけていないか。</li> <li>・子どもは自分の気持ちを伝えることができているか。</li> <li>・親として、子どもにどのように接したらよいか。</li> </ul>

特別支援学級担任は、保護者が抱く思いについて、「自分ならばどのように説明するか」を日頃から考えておくことが重要である。時間割や交流及び共同学習などの学校体制で考えるべき内容については管理職等と相談してから回答することが望ましい。

## 2 特別支援学級担任が保護者の思いに応えるための取組例

### (1) アンケートや話し合いによる保護者の思いの把握

入級前や学年末の段階で、特別支援学級担任は個別の指導計画を作成するために保護者と話し合いを行うことが必要である。話し合いが円滑に進むように、事前に保護者へアンケートを依頼しておくことが考えられる。話し合いに基づいて個別の指導計画の目標を設定することが望ましい。(アンケート例については、平成25年度のQ&Aの特別支援教育Q8参照。)

### (2) 保護者との情報共有

保護者が学校生活の様子を知るのには、子どもから話を聞くほかに、授業参観や保護者会、個人懇談などを利用して特別支援学級担任と直接話す場合や、連絡帳や電話、学級通信等による情報提供がある。それぞれの場合の留意点は次のとおりである。

授業参観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に対する支援の様子が保護者に伝わるような授業を実施する。</li> <li>・親子一緒に活動できる内容も実施することも考えられる。</li> <li>・交流及び共同学習が参観できる機会を設ける。</li> </ul>
保護者会 個人懇談等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の願いや学校への期待を聞いたり、学級の教育方針や教育内容を具体的に説明したりする時間を十分に確保する。</li> <li>・児童生徒の実態や変容等を情報交換したり指導に関する共通理解を図ったりする。</li> </ul>
連絡帳 電話等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からの情報交換を密にする。その際に、授業や学校生活の中でできたことや努力したことなどを中心に伝えるようにする。</li> <li>・担任からの連絡に対して保護者に時間的余裕がある場合は、サインだけでなく返事を書いてもらうように伝えておく。</li> <li>・学校での指導に対して家庭でも支援を依頼したい場合は、状況を具体的に説明する。</li> <li>・保護者からの相談が長くなりそうな場合は、あらかじめ対応可能な時間(終了予定時刻)を伝えておく。</li> </ul>
学級通信等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学校生活の様子や行事等のお知らせ、保護者へのお願いのほかに、教育や福祉等の研修会や進路の情報なども伝える。</li> <li>・交流学年や交流学級の通信も配布する。</li> </ul>

### (3) 保護者の思いを受け止めるために

中田洋二郎氏による保護者の障害受容(螺旋形モデル)では、「保護者の心理には、子どもの障害を否定する気持ちがコインの裏表のように共存し、状況に応じて否定と肯定のどちらかが感情や態度によって表面化する。障害受容の過程は、段階ではなく肯定と否定の両面をもつ螺旋状の過程である。保護者の思いは行きつ戻りつしているので、『障害受容ができていない親、障害受容ができていない親』と評価するのではなく、個人的な事柄として尊重すべきである。」と述べられている。

特別支援学級担任は、保護者の思いを誠実に受け止めて話し合いや相談に臨むべきである。そのためには、内容に基づいて的確な助言ができるように、教育相談や障害理解、指導方法等の研修を継続していく必要がある。

#### 【参考資料】

- |                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| ・「特別支援学級及び通級による指導 教育課程編成の手引」  | H22.2 県教委       |
| ・「初めて特別支援学級を担当する先生のためのハンドブック」 | H26.3 県総合教育センター |